

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 30 年 1 月 24 日
第 21 号

きれいに咲きますように！

1月15日、児童たちが卒業式、入学式の式場を飾るチューリップの球根をプランターに定植しました。準備した花の色は歌と同じく赤、白、黄色の3色。自分の好きな色の球根を選んで、作業の始まりです。鉢底石を入れて水はけをよくし、培養土を入れ、5個ずつの球根を植えていきます。

高学年の子が低学年の子に「球根の穴をもっと深くした方がいいよ」とか「もっと土を入れた方がいいよ」とかのアドバイスをしながら作業は進んでいきます。

植え終わったらたっぷり水をあげて、出来上がりです。最初は体育館入り口の軒下に置いたのですが、芽が出てくると鹿に食べられてしまうかもしれないので、翌日、校舎脇の花壇へ移動させました。ここなら、周囲に網が張ってあるので鹿には食べられません。サツマイモのときは猿除けのために幕を張りましたが、今回は猿については大丈夫だと思うのですが、どうなのでしょう。少し心配は残りますが・・・。

チューリップは寒い時期にしっかりと育ち、暖かくなると花を咲かせてくるはずです。4月の入学式まで、無事育ち、きれいな花を咲かせてくれることを楽しみにしています。



税金について勉強しました



1月23日、尾鷲税務署の梶原さんに入鹿小へお越しいただき、5・6年生を対象に「租税教室」を開催しました。「どんな税金があるかな」という問いかけから始まり、消費税を例に、消費者から店に渡った後の税金の流れや使われ方を教えていただくとともに、“もし税金なかったらどんな社会になるのか”のアニメを見ながら税金の大切さを学びました。

最後に、ジュラルミンケースの中から1億円分の札束が登場し、実際手に取って、1億円の量と重さを体験させていただきました。ちなみに1億円分で10kgありました。私も持たせていただきましたが、ずっしり重かったですよ。

マナウス日本人学校は〇〇天国

入鹿小学校の敷地内にはいろいろな木が植えてあります。日本だと桜の木が学校に植えてある植物の代表例ですね。では、マナウス日本人学校の敷地内にはどんな木が植わっていたでしょうか。

まず、皆さんよく御存じのマンゴーの木です。マンゴーは大きく2種類に分けられ、黄色く小さめのペリカンマンゴーと、リンゴのように赤く大きめのアップルマンゴーです。日本でも作られている高級なマンゴーはアップルマンゴーの方です。学校にはペリカンマンゴーの木があり、子どもたちは休み時間になると木に登って遊んでいました。

これもよくご存じのアセロラの木もありました。アセロラドリンクは日本でもよく目にしますが、アセロラの実自体を目にすることはほとんどありませんね。実はアセロラの実はサクランボと同じように見えます(右の写真)。初めて見たときはサクランボかなと思ったほどでした。



子どもたちに大人気だったのが、スターフルーツです。切り口が星の形をしているのでスターフルーツというのですが、これは生のまま食べることもできますが、アルミホイルで包んで少し焼き、「焼きスターフルーツ」にして食べると、甘さが増してよりおいしかったです。



カジュという木もあり、実がなります(右下の写真)。リンゴを細長くしたような、パプリカを逆さまにしたような形をしており、そのお尻の部分に勾玉のような形をしたものがついています。果実は上の部分で、やや水っぽいリンゴのような味がします。さて、この下の部分は皆さんもよくご存じのものなのですがおわかりでしょうか?この部分がカシューナッツになるのです。(プリントするとわかりにくくなってしまうので、是非ホームページでご覧ください)



このようにマナウス日本人学校には実がなる木がたくさんあるのですが、学校の敷地内に生っている果物はとり放題食べ放題です。子どもたちは休み時間に果物をとって食べているという光景をしばしば目にしました。また、敷地内ではありませんが、学校の裏のジャングルにはバナナの木もありました。何とも自由でいいでしょ。マナウス日本人学校は実はフルーツ天国だったのです。熱帯地方ですから果物は豊富にあり、街角でもたくさん売っています。本当は学校だけがフルーツ天国ではないのですけどね。

また、自分たちが食べたあとの種を植えて育ててきた果物もありますが、その紹介はまだ別の機会にしようと思います。